

発刊にあたって

時代は大きな変革期を迎え、超スマート社会（Society5.0）が到来しようとする現代社会において、未来社会が先行き不透明でどんなに複雑化しても、子どもたちには持続可能な社会の創り手となることが期待され、主体的に判断し、様々な人々や社会と関わりながら課題を解決していくための力の育成が求められています。

そこで、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して、学習活動のさらなる充実に向け、これまでに培われてきた様々な工夫と共に、ICTの新たな可能性を指導に生かすことで、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが重要となっています。

北海道教育委員会が令和5年に策定した北海道教育推進計画の施策項目 3「新しい時代に必要な資質・能力の育成」の方向性でも ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進め、新しい時代に必要となる資質・能力を育成すること ②ICT等を活用し、発達の段階に応じて、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが示されています。

空知教育センターでは、令和6年度より、「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方 ～ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～ を研究主題とした2か年の研究をスタートさせました。

また、研究推進にあたっては、管内小中学校・義務教育学校からご推薦いただきました意欲的な教育研究員4名と担当所員により「教育研究推進協議会」を組織し、研究実践を進めてまいりました。今年度、9回にわたる研究では、理論研究・検証授業や研究協議・教育研究事業発表会を行い、研究仮説である「1. 授業において、個別最適な学びと協働的な学びの場面を一体的に充実させることで、主体的・対話的で深い学びとなり、確かな学力の育成につなげることができる」「2. ICTを効果的に活用することにより、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることができる」これらの検証を進めて参りました。

このたび、1年次目の理論研究や検証授業、分析結果、考察や残された課題などをとりまとめたリーフレット「Eduジャーナル」を発刊する運びとなりました。このリーフレットを各学校の校内研修、また、日々の実践の参考資料としていただければ幸いです。

結びに、本研究推進に際して意欲的・献身的に取り組まれた教育研究員の皆様、ご指導・ご助言をいただきました関係市町教育委員会、各学校の皆様にも心より感謝とお礼を申しあげ、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

令和7年3月

空知教育センター所長 岩城之泰

～目次～

P2～5 「1章『研究の概要』」

P6～13 「2章『研究の内容』」

P14 「3章『今年度の成果と課題』」

P15「次年度に向けて」

P16「あとがき」

1 研究主題

「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方

～ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～

2 主題設定について

人口減少や少子高齢化の進行、情報技術やグローバル化の進展などにより、人々の価値観やワークスタイルがこれまでと比べ大きく変わり、従来の知識や経験だけでは解を見いだすことが難しい時代となった。そのため、学校教育においては、こうした変化の激しい時代にあっても、子どもたちが、未来において様々な困難を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていくために、自らの良さや可能性を認識するとともに、全ての人を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら持続可能な社会の創り手として成長していくために必要な資質・能力を育むことが求められている。

こうした中、文部科学省においては、「教育振興基本計画第4期（令和5年度～令和9年）」を定め、めまぐるしく変化する社会で、一人一人が社会の担い手となること、そして社会全体のウェルビーイングの向上を目指して5つの方針と16の目標を示し、その第1として、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」「学修者本位の教育の推進」等を基本施策とする目標を提示した。

また、北海道教育委員会においては、「北海道教育推進計画（2023年度～2027年度）」を策定し、「自立」と「共生」の理念の下、SDGs・ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）を推進することにより、子どもたちが持続可能な社会の創り手として成長することや、GIGAスクール構想のもと急速に進んだICTの活用により、子どもたちの特性・環境等に応じた教育の実現など、学びの環境をより一層充実させることを目指している。さらに、ICTの活用に関しては、「令和5年度小・中学校教育課程改善の手引」においても、「児童自身がICTを『文房具』として自由な発想で活用できるよう組織的、計画的な取組を推進し、『個別最適な学び』『協働的な学び』の一体的な充実を図っていく必要がある」として、端末等の活用については、ステップ1（積極的に活用）ステップ2（効果的に活用）から、ステップ3（主体的に活用）までの深化を示している。

昨年度まで、空知教育センターでは、「『確かな学力』の育成を図る学習指導の在り方～『個』を生かす『協働的な学び』を取り入れた授業改善～」のテーマのもと、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習指導の在り方を明らかにすることを旨とし、研究を進めてきた。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関わっては、学び合いや教え合いによる学習効果や、そのことによる児童・生徒の意欲の向上、また、問題や方法の選択がそれぞれの学習意欲につながることを成果として見出すことができた。さらに、そのための意図的なICTの活用では、視覚的なわかりやすさが思考や説明の不足を補うことや、画面共有から友達の良さや自分の改善点・修正点に気づけることなども見取ることができた。また、反面、個別最適な学びと協働的な学びを取り入れるバランスや組み合わせの難しさ、ICTの効果的な活用場面や活用範囲の適切な判断の困難さなど、今後の課題も明らかにすることができた。

これらのことから、空知教育センターでは、研究主題を「『確かな学力』の育成を図る学習指導の

在り方～ICT を効果的に活用した『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実～と設定し、今日的な教育課題の解明に寄与するとともに、その成果を管内に還元することを目標に2カ年計画の研究を推進していく。効果的な ICT の活用を通じた、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通して、「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方を明らかとすることを旨す。

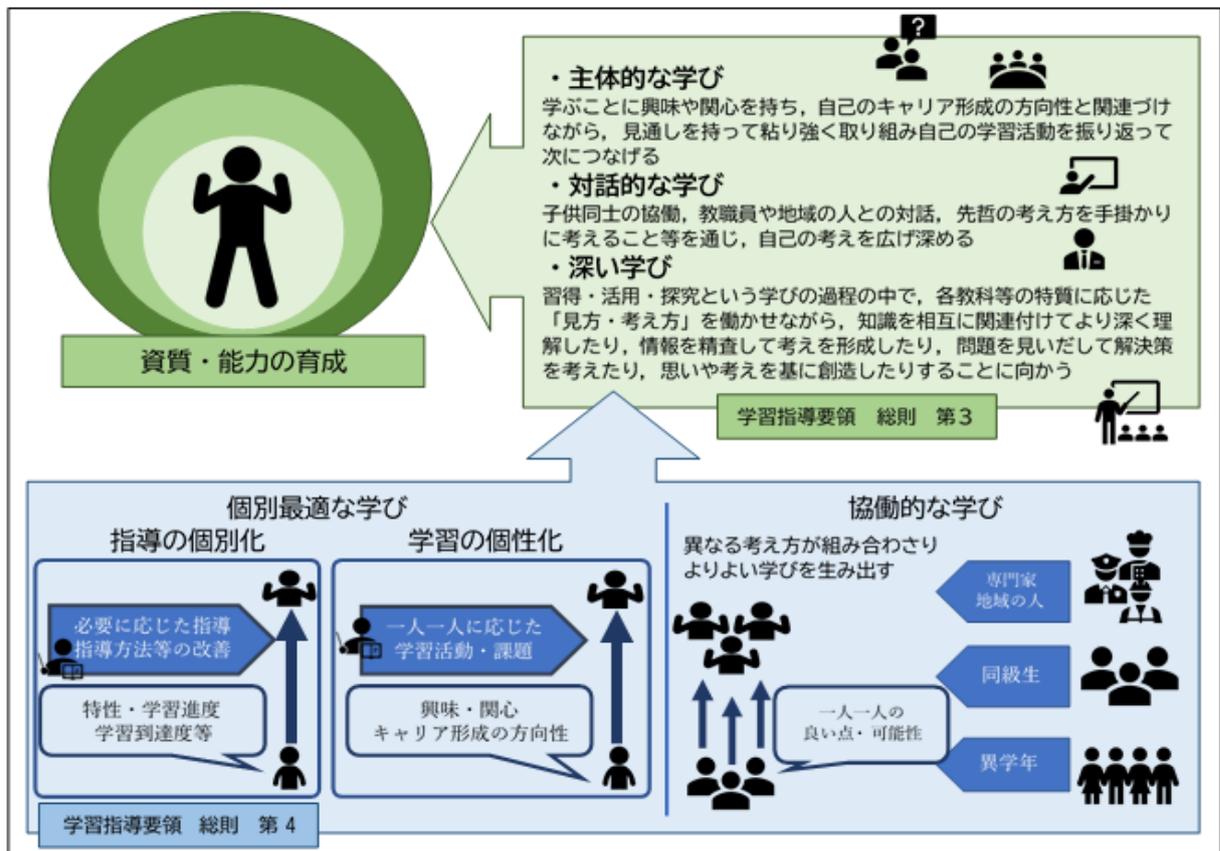
3 研究の目的

- (1) 主体的・対話的で深い学びの視点から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業や学習指導の在り方を明らかにすること。
- (2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための ICT の効果的活用方法について明らかにすること。

4 研究仮説

- (1) 授業において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の場面を一体的に充実させることで、主体的・対話的で深い学びとなり、確かな学力の育成につなげることができる。
- (2) ICT を効果的に活用することにより、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることができる。

【研究仮説に関わるイメージ図】



「教育課程部会における審議のまとめ」に基づき空知教育センターが作成したイメージ図

5 研究の視点

(1) 【視点①】 研究仮説（1）に関わって

- ・授業において「個別最適な学び」と「協働的な学び」が効果的に取り入れられていたか。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が図られていたか。

(2) 【視点②】 研究仮説（2）に関わって

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるため、ICTが効果的に活用されていたか。

6 研究計画

(1) 令和6年度（2か年計画1年次目）の重点

- ①「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業や学習方法の在り方の検証。
- ②「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるためのICTの効果的活用方法の検証。

(2) 教育研究推進協議会の発足に当たって

①教育研究推進協議会の構成員

所属学校の推薦を受けた空知管内教員4名（小・中学校各2名）、空知教育センター所員4名、計8名体制を基本とする。

②教育研究推進協議会推進日程について

- ・年10回程度の開催。
- ・理論研修や検証授業を中心として、研究目的の遂行や研究仮説の検証を行う。

【参考文献】

- ・平成29年告示 学習指導要領総則 中学校
- ・平成29年告示 学習指導要領総則 小学校
- ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ 答申
- ・学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和3年3月版）文部科学省初等中等教育局教育課程課
- ・教育課程部会における審議のまとめ 令和3年1月25日 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会
- ・教育振興基本計画 令和5年6月16日（第4期：令和5年度～令和9年）
- ・北海道教育推進計画（2023年度～2027年度）
- ・令和5年度小・中学校教育課程改善の手引き

【研究主題】

「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方

～ICT を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～

【研究の目的】

- (1) 主体的・対話的で深い学びの視点から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業や学習指導の在り方を明らかにすること。
- (2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための ICT の効果的活用方法について明らかにすること。

【研究仮説】

- (1) 授業において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の場면을一体的に充実させることで、主体的・対話的で深い学びとなり、確かな学力の育成につなげることができる。
- (2) ICT を効果的に活用することにより、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることができる。

【視点①】 学びの過程に関わる取組

- ・授業において「個別最適な学び」と「協働的な学び」が効果的に取り入れられていたか。
- ・解決方法や各種ソフトなどを目的に応じて選択・活用できていたか。

【視点②】 ICT 等の活用に関わる取組

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるため、ICT が効果的に活用されていたか。

【教育研究推進協議会】

- ・理論研修
- ・各種研修講座参加
- ・研修成果のまとめ・発信

【検証授業】

- ・指導案検討
- ・授業公開
- ・授業反省

【派遣事業】

- ・道内外教育研究大会等への派遣

第5学年算数科学習指導案

日 時：令和6年9月20日（金）第5校時

場 所：赤平市立赤平小学校 5年2組教室

児 童：5年2組 21名

指導者：T1 畠中 由香理 T2 佐藤 知佳子

1 単元名「分数の大きさとたし算、ひき算」

2 単元について

児童は4学年において、真分数・仮分数・帯分数の意味を学び、また、大きさの等しい分数があることや、同分母の分数の加法・減法についても理解を図ってきた。本単元では始めに、分母と分子に同じ数をかけても分母と分子を同じ数でわっても分数の大きさは変わらないという性質を見だしこの性質を用いて大きさの等しい分数をつくったり、約分の意味と方法について考えたりしていく。次に、分数の大小の考察をとおして、通分の意味と方法についても理解を図る。前単元「整数の見方」で指導した公倍数・公約数と結びつけて考えさせていきたい。その後、異分母の分数の加法・減法を扱う。分母が異なるときはそのままでは計算できないことに気づかせて、通分して単位をそろえて、同分母の分数の加減計算に帰着するという見方・考え方を理解させることが大切である。また、もとの大きさを何等分したかを表す分母と、等分した大きさのいくつ分かを表す分子によって表される分数の表現に着目することが大切である。1を2等分した1つ分や、4等分した2つ分などの大きさを、図を用いて考察することにより、大きさの等しい分数の性質を見だししていく。この性質が、約分や通分のしかたの根拠になっていく。また、異分母の分数の加法・減法のしかたについても、分数の性質に着目して分母の大きさをそろえて考えていく。算数の見方・考え方の一つである、単位の大きさをそろえて計算することに着目して指導していきたい。

5年2組の児童は、自力解決の場面で、意欲的に取り組む姿が見られるが、算数に対する苦手意識はある。全体交流の場面では、友達の説明や考えに耳を傾け、それに対して納得したり違う考え方を示したりするなど、協働的に解決に向かおうとする姿が見受けられる。一方、「わからない」ことに対する抵抗感を抱く児童も一定数いるため、見通しをもたせ、根気強く考えるように促している。「わかりたい」という気持ちを学習の最後まで持続させるための手立てを工夫していきたい。そして、本単元を単なる計算処理に終始する指導ではなく、題意や計算の意味を理解できるよう、「できた」「わかった」を大切にしながら指導に努めたい。

〈研究とのつながり〉

本時では、異分母の分数の加法の計算のしかたを理解することを目標としている。個人思考では、2つの考えから1つを選択して考え、ロイロノートを活用して考えを書いたり写真を撮ったりする。グループ交流、全体交流では、自分の考えをわかりやすく説明したり、友達の考えを聞いたりする。これらのことを通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図るとともに、自分の考えを深めたり、新たな気づきに繋がられたりすると考える。

3 単元の目標と評価規準・指導計画

(1) 単元の目標

- 分数の意味と表し方について理解を深め、分数の相等や大小関係について考える力を身につけるとともに、異分母の分数の加法及び減法の計算のしかたについて、図や式などを用いて考える力を身につける。また、その過程を振り返り、分数の表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【学習指導要領との関連 A(4)ア(ウ)(エ)、A(4)イ(ア)、A(5)ア(ア)、A(5)イ(ア)】

(2) 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
分数の分母、分子に同じ数を乗除してできる分数は、もとの分数と同じ大きさを表すことや、分数の相等及び大小について理解し、大小を比べることができる。また、異分母の分数の加法及び減法の計算ができる。	数を構成する単位に着目し、数の相等及び大小関係について考察している。また、分数の意味や表現に着目し、異分母の分数の加法及び減法の計算のしかたを考えている。	分数の意味と表し方、異分母の分数の加法及び減法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。

(3) 単元の指導計画

時	ねらい	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体的
1	大きさの等しい分数の表し方を考え、分数の性質を理解する。	○	○	◎
2	約分の意味を理解し、約分することができる。	◎	○	○
3	異分母の分数の大小の比べ方を考え、通分の意味を理解する。	◎	○	○
4	分母の公倍数に着目して、通分することができる。	○	◎	○
5	異分母の分数の加法の計算のしかたを理解する。(本時)	◎	○	○
6	異分母の分数の加法の計算で約分をする場合や、異分母の帯分数の加法の計算ができる。	○	◎	○
7	異分母の分数の減法の計算のしかたを理解する。	◎	○	○
8	異分母の帯分数の減法の計算や、3口の異分母の分数の加減混合の計算ができる。	○	◎	○
9	学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	◎	○	○

4 本時案 (5/9)

(1) 本時の目標

○分数の見方や通分の考え方を通して、異分母の分数の加法の計算のしかたを理解する。

(2) 本時の展開 (2) 本時の展開

	児童の学習活動と内容 (●)	教師の発問 (○) や手立て (・)	視点との関わり (・) 評価 (■)
課題設定 8分	<p>左の問題</p> <p>● $\frac{2}{5} + \frac{1}{5} = \frac{3}{5}$ $\frac{3}{5} L$</p> <p>右の問題</p> <p>● $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{2}{5} L \quad \frac{1}{6} L \quad \frac{5}{6} L$ など</p> <p>●分母がそろっていない。</p> <p>●分母が同じだと計算できるけど・・・</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>5 かえでさんは、$\frac{1}{2}L$と$\frac{1}{3}L$のジュースをしぼりました。あわせて何Lあるでしょうか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>分母のちがう分数のたし算は、どのように計算すればよいだろうか。</p> </div>	<p>○2つの問題を比べてみよう。</p> <p>・色水で量を確認する。</p> <p>○答えは？</p> <p>○どこが違う？困るところはある？</p> <p>・問題提示</p>	
課題の	<p>〈見通し〉</p> <p>・計算でやってみよう。(ピンク)</p> <p>・入れ物のメモリをそろえて考えてみよう。(み</p>	<p>・2つの見通しを提示する。</p>	

追
求
・
解
決
17
分

どり)

●どちらかの方法を選んで、計算のしかたを考える。

*ヒントカード

・計算

ゆき

◆分母をそろえて考える。

$$\frac{1}{2} = \frac{1 \times 3}{2 \times 3} = \frac{3}{6}$$

$$\frac{1}{3} = \frac{1 \times 2}{3 \times 2} = \frac{2}{6}$$

・図

はる

◆図を使って考える。

●通分グループと図グループに分かれて交流する。

【交流の視点】

- ① 答えの確認
- ② どうやって考えたのか。なぜそうしたのか。

●全体で交流する。

【計算】 $\frac{1}{2} = \frac{1 \times 3}{2 \times 3} = \frac{3}{6}$ $\frac{1}{3} = \frac{1 \times 2}{3 \times 2} = \frac{2}{6}$

それぞれを通分して分母をそろえることで分母が同じ計算のしかたと同じように計算できる。

だから、 $\frac{3}{6} + \frac{2}{6} = \frac{5}{6}$ $\frac{1}{6}$ が(3+2)個分

【図】・入れ物のメモリを6個に分けて、 $\frac{1}{6}$ をも

とにするとわかる。

だから、 $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ は、 $\frac{3}{6} + \frac{2}{6} = \frac{5}{6}$

・計算はロイロのピンクのカード、図はみどりのカードにかいて、それぞれ提出させる。ノートにかきたい児童は、かいた物を写真に撮って送らせる。早く書き終わった児童にはもう一つの方法で考えさせる。手が止まっている児童にはヒントカードを配る。

・T2と分担して机間指導する。(ピンク畠中、みどり佐藤)

・同じ色のカードの友達を見つけて交流する。

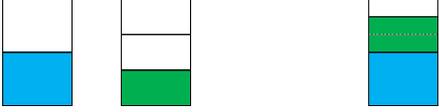
■異分母の分数の加法の計算のしかたを、図や式に表して考えることができる。

視点1

個別最適な学びと協働的な学び：どちらかの方法を選択し考えることで、どの子も考えをもち、同じ考えの友達とよりわかりやすい表し方や説明の仕方を考えることができる。

視点2

ICTの活用：考え方を全体に共有しながら説明し合うことで、どのように考えたかを示しやすくする。

	$\frac{1}{2}$ $\frac{1}{3}$ $\frac{3}{6} + \frac{2}{6}$ $\frac{1}{6}$ が(3+2)で $\frac{5}{6}$ 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で答えを確認する。 	
<p>定着 20分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書 P124 9を解く。 ●適用問題を解く。(キュービナ) ●振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で計算のしかたを確認する。(ノート) ・3分間 ○今日学習した考え方を振り返ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ■異分母分数の加法の計算ができる。

分母のちがう分数のたし算は、分母を通分すれば計算できる。

<授業の様子>

1：児童が自己に最適な学習問題への取り組み方を決められる授業構成

学習問題をどのように解決していくのか、児童が選択できる場面を設定したことが、「個別最適な学び」の実現に大きく付与していました。

2：学習者自らのニーズに合わせて「他者参照」できる場の設定

同じ解決方法を選択した学習者同士が、自らのニーズに応じて、自由に他者と交流し、自らの意見に自信を持ったり、新しい見方や考えた方に気づいたりする姿が見受けられました。



<授業反省>

【成果】

- ・解法を個人に選択させたことが、学習者の意欲や達成感に繋がっていた。
- ・学習者にさせたい活動が明確になっていることの大切さが再確認できた授業であった。
- ・解決方法として、ロイロノートなどのデジタルを用いた方法も、ノートに図を書くなどのアナログ的方法も選択できるようにしていた点良かった。

【課題】

- ・協働的な学びを一層充実させるために、ルーブリックを提示するなどの手立てを取っても良かった。
- ・タブレットの共有機能やモニタリング機能をより効果的に活用することで、更に学びが深まったのではないかな？

② 検証授業における成果と課題 実践事例①

「個別最適な学び」「協働的な学び」およびその一体的な充実などの学びの過程

■ 成果

- ☆解法を個人に選択させたことが意欲や達成感に繋がる。
- ☆何に重点を置いて授業を構成するか、明確な意図を持つ。

■ 課題

- ☆協働的な学びをより充実させる手立ては？
- ☆個別⇔協働の柔軟かつスムーズな切り替えをどのようにしていくのか？

② 検証授業における成果と課題 実践事例①

効果的なICT等の活用に係わる取組

■ 成果

- ☆ICTだけではなく、アナログも選択できる良さを見つけることができた。
- ☆選択した学び方をカードで色分けすることで、学ぶ方法が分かりやすく他者に示された。

■ 課題

- ☆ICTだからこそその良さを活かした授業づくりをどのようにしていくか？
- ☆共有機能やモニタリング機能のより効果的な活用をどのようにしていくか？

第1学年国語科学習指導案

日 時：令和6年11月14日（木）5校時

場 所：歌志内市立歌志内学園 1年生教室

児 童：1年1組 5名

指導者：廣川 麻乃

1. 単元名 「 かん字のはなし 」

2. 単元について

本教材は、漢字の成り立ちについて書かれた文章と、漢字の部分を絵にした短文、そして、漢字11字の成り立ちについての図解資料で構成されている。漢字の成り立ちのおもしろさに気づくことは、漢字に対する興味・関心を引き出す大事なきっかけの一つである。文章を読み、漢字のでき方の不思議さやおもしろさに気づかせながら、漢字には意味があるということを知り、正しい使い方を楽しく学習させたい。

教科書には、物の形や様子を表す絵から作られた象形文字と、位置・数量などの抽象的な概念を線や点で表した指事文字が取り上げられている。漢字の表意性を児童に理解させるには、文字の成立を、説明と合わせて、絵と、漢字と、読みを表すひらがななどを比べながら考えさせることが大切である。

5名の児童は、学習への意欲が高く、どんな学習に対しても興味をもって臨むことができる。普段からオクリンクを活用し学習活動に取り組んでいるため、タブレット上に図や言葉を書き込んだり、図形や写真を動かしたりする使い方には慣れている。また、タブレットを活用して学習に取り組むことやタブレット上に示した自分の考えを共有して交流することを楽しむ様子も見られる。今回の学習では、漢字と漢字を表す元になった絵をタブレット上で照らし合わせていくことで、様々な漢字の成り立ちへの理解を深めるとともに、漢字そのものへの興味・関心を高めていきたい。

〈研究とのつながり〉

本時では個人思考の際に、様々な漢字や漢字の元になった絵の中から選択して成り立ちを考え、オクリンクを活用して並び替えていく活動となる。全体での活動では、仲間とともに楽しめるゲームを通して、漢字の成り立ちについて自分で言葉を選んで説明したり、友だちの説明を聞いたりすることができる。これらのことを通して、ICTを活用しながら個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図るとともに、漢字の成り立ちについて自ら考え、理解を深めていくことができると考える。

3. 単元の目標と評価規準・指導計画

(1) 単元の目標

- 第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。
- 語と語の続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫することができる。
- 積極的に漢字の成り立ちに興味を持ち、学習課題に沿って漢字を使った短い文を書くことができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使っている。 ・漢字にはすがたやようす，しるしからできたものがあることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において，語と語との続き方に注意しながら，内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫している。 ・漢字がどのようにできたのか，成り立ちを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に漢字の成り立ちに興味をもち，学習課題に沿って漢字を使った短い文を書こうとしている。 ・学習したことを生かし，短文クイズを作ろうとしている。

(3) 単元の指導計画

時	ねらい	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体的
1	すがたやようすからできた漢字があることを知る。	◎	○	○
2	しるしからできた漢字があることを知る。	◎	○	○
3	様々な漢字の成り立ちを考える。(本時)	○	◎	○
4	漢字の音について知る。	◎	○	○
5	学習した漢字を使って，文章クイズを作る。	◎	○	◎
6	文章クイズを出し合い，漢字の形や成り立ちについて考える。	○	◎	◎

4. 本時案 (3/6)

(1) 本時の目標

○漢字にはすがたやようす，しるしからできたものがあることを踏まえ，漢字とその元になった絵を見比べて，漢字の成り立ちについて考えることができる。(思考・判断・表現)

(2) 本時の展開

児童の学習活動と内容 (●)	教師の発問 (○) や手立て (・)	視点との関わり・評価 (■)
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に載っている絵の入った文章を見る。 <p>●課題の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">課題</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;">えを かん字に へんしんさせよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;">見通し</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○どのように読むのかな？ ○この絵がどんな漢字になるのか，考えてみよう。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・すがたやようすからできたものがあった。(「山」「雨」など) ・しるしからできたものがあった。(「上」「下」など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字にはどのようにできたものがあったかな？ 	

<p>●学習活動1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オクリンクを使い，絵から漢字にどのように変身するのか，並び替える。(個人思考) ・画面をモニタリングし，考えを発表し合う。(全体交流) <p>●学習活動2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に載っている絵の入った文章を読む。 	<p>○どの絵がどの漢字に変身するのか，これまで学んだことを思い出して考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の仕方を伝える。 <p>「この絵が変身して□という漢字になったと思います。」</p> <p>○絵がどんな漢字に変身したかを考えて，文章を読もう。</p>	<p>視点1</p> <p>個別最適な学習：様々な漢字を自分でできそうなものから選び，取り組む。</p> <p>視点2</p> <p>ICTの活用：個人での活動，全体での交流を簡単に行うことができる。</p>
<p>●まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字を選んで，まとめる。 	<p>○絵がどうやって漢字に変身したのか，まとめよう。</p>	<p>■漢字の成り立ちについて，まとめることができる。</p>

まとめ	○○のすがたから・ようすから・しるしから、□というかん字にへんしんした。
-----	--------------------------------------

・まとめを交流する。

●学習活動3

・漢字変身ゲーム

<ul style="list-style-type: none"> ・漢字と元になった絵の神経衰弱をする。 ・ペアができれば、「○○のすがたから・ようすから・しるしから、□という漢字ができました」と発表する。

●振り返り

振り返り

・「振り返りポイント」を活用し，学習を振り返る。

<p>振り返りポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> ①わかったこと ②じぶんやともだちのかんがえ ③じぶんががんばったところ ④わからなかったこと ⑤もっとべんきょうしたいこと
--

■漢字の成り立ちについて，自分で言葉を選び，説明することができる。

視点1・2

協働的な学び・ICTの活用：仲間とゲームを楽しみながら，学びを深めていく。

学習活動で使用するオクリンクカード



<授業の様子>

1：低学年段階でも、オクリンクを活用して授業に取り組む児童の姿

本授業の学習者は小学校1年生でしたが、オクリンクを上手に操作して授業に取り組んでいました。小学1年生段階でも、計画的に指導をすることで、デジタルスキルが確かに身につくことを実感できました。



2：「個別最適な学び」と「協働的な学び」のサイクルが生まれる場の設定

本授業では、「漢字変身ゲーム」という活動を行いました。本学級は学習者の人数が5名と少ない中、友達と協力しながら取り組む仕掛けをつくり、意欲的に取り組む姿が見られました。また、ゲームが進むにつれ、「そういうことね！」等と自らの学びを調整している姿も見受けられました。



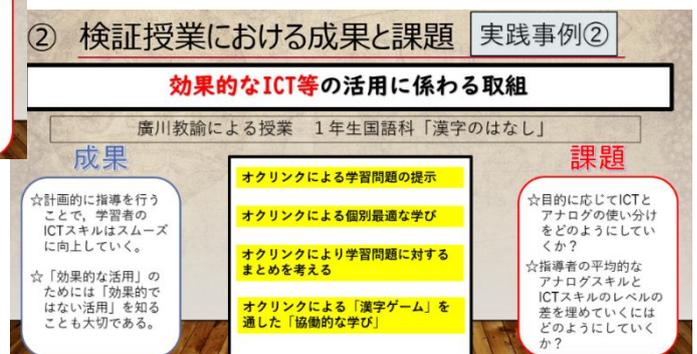
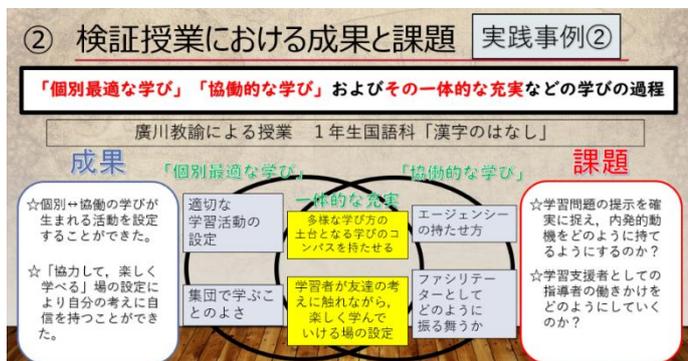
<授業反省>

【成果】

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」が生まれる活動を設定が設定されていたことが、学習者の意欲に繋がり、進んで取り組む姿が見られた。
- ・ICTが「個別最適な学び」と「協働的な学び」のスムーズな橋渡し役になることが確認できた。ICTを活用することで、学習者は自分のニーズに応じて学び方を変えることができる。必要な情報を自分のニーズに応じて取得し、学習に生かしていく過程は情報活用能力の育成にも繋がる。

【課題】

- ・学びの始まりとなる学習問題のつかませ方に改善の余地があった。本授業では最終的には活動の内容を学習者全員がつかめていたが、最初につかめていない児童もいた。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるためには、最初に学習問題に対して児童一人ひとりが確かな問題解決へのエージェンシーを持つことが大切である。この点についての有効な手立てを今後も検討していく必要性を感じた。
- ・目的に応じてデジタル的な方法や、アナログ的な方法を使い分けた方が効果的ではないかという意見があがった。それぞれの手法に良さがあり、「ICTが効果的である場面」と「ICTが効果的ではない場面」両方について、研究を深めていくことが大切であると確認できた。



3章 「研究の成果と課題」

<p>③ 今年度の研究の成果と課題 成果</p> <p>「個別最適な学び」「協働的な学び」およびその一体的な充実などの学びの過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自己調整」の場を設定することが効果的である。 ・授業の中に「他者参照」できる場があることが効果的である。 ・授業者の「ファシリテーター」としての姿勢が大切である。 	<p>③ 今年度の研究の成果と課題 課題</p> <p>「個別最適な学び」「協働的な学び」およびその一体的な充実などの学びの過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元及び1単位時間において、学びの始まりとなる学習問題をどのように提示すると効果的なのか？ ・指導者の指示・発問が多くなりすぎることによる学習者の思考の分断をどのように防いでいくのか？
<p>③ 今年度の研究の成果と課題 成果</p> <p>効果的なICT等の活用に係わる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な活用は2つの側面から考えていくと良い！！ ・ICTは、橋渡し役！！ 	<p>③ 今年度の研究の成果と課題 課題</p> <p>効果的なICT等の活用に係わる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTが効果的な場面の具体は？ その指標づくりの必要性は？さらに、その指導者と指導する学習集団にベストマッチな選択の仕方は？ ・指導者側のICTのスキルレベルを、効果的に高めていく手立ては？

1 視点①「個別最適な学び」と「協働的な学び」およびその一体的な充実など学びの過程

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・単元及び1単位時間の中に「自己調整」の場を設定することが効果的であると確かめられた。従来のように、学習問題に対する解決の方法を指導者側が示すのではなく、学習者自身が選択していくことで、学習の「個性化」「個別化」が発生し、主体的に学んでいくことにつながると分かった。（*ここでいう自己調整とは「動機づけ」「学習方略」「メタ認知」のことを指す。） ・単元及び1単位時間の中に「他者参照」できる場を設定することが効果的であると確かめられた。友達の意見に触れることで、自分の意見に自信を持ったり、新たな見方・考え方を獲得したりしている学習者の姿が見受けられ、その効果が明らかになった。 ・学習者同士の対話を促す存在として「ファシリテーター」の意識を授業者が持つことの大切さが確かめられた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・単元及び1単位時間において、学びの始まりとなる学習問題を、どのように提示すると効果的であるのかについて、授業実践後の事後検討で話題になった。様々な内容を、色々な学習集団にいつ・どこで・どのように提示するのか今後も検証を重ねていく必要がある。 ・指導者の指示・発問の精選が大切であると確かめられた。 指導者が伝えたいことを伝えるスタイルから、どのように学習者が必要な情報を伝えていくスタイルへ変容させていけば良いのか、今後も研究を重ねる必要がある。

2：視点②「効果的な ICT 等の活用」に係わる取り組み

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTは、指導者側の立場からの効果的活用と、学習者側の立場からの効果的活用を考えていくと良いことが確かめられた。 ・ICTは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」のスムーズな橋渡し役を担えると確かめられた。また、ICTを効果的に活用することで、学習者自信が自己の必要に応じて「個別最低な学び」と「協働的な学び」を自ら切り換え、主体的に学んでいくことも確かめられた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTをどのような場面で活用すると効果的なのか、その指標が必要ではないかという話題が事後検討で挙がった。しかしながら、指標があることのメリットもあればデメリットもある。そして、指標を作成したとして、その活用の仕方も含めて総合的に考えていく必要がある。 ・学習者一人ひとりのデジタルスキルを効果的に高めていく手立てについて話題に挙がった。これについては空知教育センターにおける研修講座のあり方も含め、今後総合的に検討していきたい。

④ 次年度の研究について

効果的なICTの活用を通じた、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が図られた授業の中で、確かな学力の育成していく学習指導の在り方を明らかにする。

授業者が明確な意図のもとに、ICT利用を吟味し、活用する。

学習の「個性化」と「個別化」を意識した授業の組み立て

ICT活用による「個別最適な学び」「協働的な学び」のスムーズな橋渡し

実践・検証から効果的な実践例を増やし、発信していく。

次年度は2カ年計画の2年次となる。今年度明らかになった成果や課題をもとに、教育研究推進委員の方々と連携し、研究を深めていく。

- ① 授業者が単元や1単位時間が終わった時に、学習者が「どのようなことができるようになっていくのか?」「学習に対してどのような感想を持っているのか?」明確なイメージを持つこと
- ② 単元及び1単位時間の中に、学習者が「自己調整」できる場を設定すること
- ③ ICTの活用。授業者が活用するのか?活用しないのか?明確な意図を持つこと。また、活用するとして、ICTが「個別最適な学び」と「協働的な学び」のスムーズな橋渡しを担う授業後世になっていること
- ④ 学習者が、自己の学びを「他者参照」できる場を設定すること
- ⑤ ①から④について、指導案上に明記し、事後検討の質をより高めていくこと

これらの手立てが「確かな学力を育成していく学習指導のあり方」にどのような効果をもたらすのか、実践および検証から効果的な実践例を増やし、発信していくこととする。

◆ 研修講座のひとコマ ◆



R6.7.9 「学校経営①（教頭職）」



R6.7.30 「特別支援教育」



R6.8.6 「授業での ICT 活用」



R6.10.8 「国語科教育 授業公開講座」



R6.10.22 「社会科教育」



R6.11.12 「SDG s 教育」



R6.11.14 「教育研究事業 授業公開講座」



R6.11.22 「国際理解② 授業公開講座」



R7.1.7 「教育研究事業中間発表会」

◆ 令和6年度 空知教育センター 教育研究推進協議会の教育研究員紹介 ◆

協議会会長	: 角 田 直 之 (妹背牛町立妹背牛中学校)
教育研究員	: 白 岡 大 樹 (雨竜町立雨竜小学校)
	: 廣 川 麻 乃 (歌志内市立歌志内学園)
	: 真 部 卓 (新十津川町立新十津川中学校)

空知教育センター教育研究情報誌 “Edu ジャーナル”

発行日 令和7年3月31日
 発行者 空知教育センター所長 岩城 之泰
 発行所 北海道滝川市文京町4丁目1番1号
 Tel. 0125-22-1371 Fax. 0125-22-1372
 E-mail kyosen@sorachi-ed.jp URL <http://sorachi-ed.jp>
 印刷所 (有)田中タイプ印刷(滝川市朝日町東2丁目3番15号)

